

**抗がん剤療法指示票  
M-01(No.69)**

**ティーエスワン療法（4週投与 2週休薬）**

第（ ）回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m <sup>2</sup>		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師	

**投与間隔** : 4週投与 2週休薬  次回採血(外ケモ)  患者日記でグレード2以上の副作用の有無確認

◎投与量

TS-1【 】mg【 】Tab 分2

体表面積	1日用量
1.25m <sup>2</sup> 未満	TS-1(20mg) 4T 分2
1.25m <sup>2</sup> 以上1.5m <sup>2</sup> 未満	TS-1(25mg) 4T 分2
1.5m <sup>2</sup> 以上	TS-1(20mg) 6T 分2

※下記検査値を参考に用量設定を行う

①	ティーエスワン処方 ( 8 / 1(月) ~ 8 / 8(日) ) 4週間分 ( 第1日目 ~ 第28日目 ) ( / ) 印
	休薬期間 ( 8 / 29(月) ~ 9 / 11(日) ) 2週間

◎ティーエスワン 休薬・減量・再開の目安

検査項目	休薬・減量を考慮する値	再開の目安	
白血球	2000~3000	3000以上	
好中球	1000未満	1500以上	
血小板数	7.5万未満	10万以上	
総ビリルビン	ULN×1.5倍以上(2mg/dL以上)	ULN×1.5倍未満(2mg/dL未満)	
AST(GOT)	ULN×2.5倍以上(100IU/L以上)	ULN×2.5倍未満	
ALT(GPT)			
クレアチニン	ULN以上	ULN未満	
クレアチンクリアランス	60未満	30未満	30未満は基本的に再投与は行わない
投与開始量	減量を考慮	休薬	

◎ティーエスワン 増減時の用量 参考

減量	初回基準量	増量
休薬	40mg/回	50mg/回
休薬←40mg/回	50mg/回	60mg/回
休薬←40mg/回←50mg/回	60mg/回	75mg/回

※各クール開始前は必ず、投与期間中は適宜、臨床検査(血液検査、肝・腎機能検査等)を行う

※特に1クール目及び増量時には頻回に臨床検査を実施する

※術後補助療法は1年間

**抗がん剤療法指示票  
M-02(No.70)**

**ティーエスワン療法（2週投与 1週休薬）初回**

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法	医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m <sup>2</sup>			
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

**投与間隔** : 2週投与 1週休薬  次回採血(外 ケモ)  患者日記でグレード2以上の副作用の有無確認

◎初回投与量

TS-1 【            】 mg 【            】 Tab 分2

体表面積	1日用量
1.25m <sup>2</sup> 未満	TS-1(20mg) 4T 分2
1.25m <sup>2</sup> 以上1.5m <sup>2</sup> 未満	TS-1(25mg) 4T 分2
1.5m <sup>2</sup> 以上	TS-1(20mg) 6T 分2

※下記検査値を参考に用量設定を行う

①	ティーエスワン処方 ( 8 / 1(月) ~ 8 / 14(日) ) 2週間分 ( 第1日目 第14日目 ) (    /    ) 印
	休薬期間 ( 8 / 15(月) ~ 8 / 21(日) ) 1週間
②	ティーエスワン処方 ( 8 / 22(月) ~ 9 / 4(日) ) 2週間分 ( 第1日目 ~ 第14日目 ) (    /    ) 印
	休薬期間 ( 9 / 5(月) ~ 9 / 11(日) ) 1週間

◎適正使用の目安 ※ワ-ファリン、フェニチン併用時は出血、てんかん発作のリスクあるため注意

検査項目	適正使用基準	慎重投与		
ヘモグロビン	9.0以上	8.0~9.0未満		
白血球	3500~12000	2000~3500未満、12000以上		
好中球	2000以上	1000~2000未満		
血小板数	10万以上	7.5~10万未満		
総ビリルビン	1.5mg/dL以内	1.5~3mg/dL未満		
AST(GOT)	ULN×2.5倍以内	ULN×2.5倍を超えて150IU/L 未満		
ALT(GPT)				
クレアチンクリアランス	80以上	80 > ≥60	60 > ≥30	30未満
投与開始量	初回基準量	初回基準量 必要に応じて減量	減量	投与不可

※各クール開始前は必ず、投与期間中は適宜、臨床検査(血液検査、肝・腎機能検査等)を行う

※特に1クール目及び増量時には頻回に臨床検査を実施する

※術後補助療法 投与の目安・・・胃がんは1年間、膵臓がんは半年間

**抗がん剤療法指示票**  
M-03(No.71)

**ゼローダ療法 (A法: 3週投与 1週休薬)**

(乳がん: 手術不能又は再発乳がん) 第 ( ) 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法	医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m <sup>2</sup>			
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

投与間隔 : 3週投与 1週休薬

次回採血 (外 ケモ)

グレード2以上の副作用の有無確認

◎初回投与量

ゼローダ300mg 【 】錠/日 朝夕食後

体表面積	1日用量
1.31m <sup>2</sup> 未満	1800mg/日(6錠) 分2
1.31m <sup>2</sup> 以上1.64m <sup>2</sup> 未満	2400mg/日(8錠) 分2
1.64m <sup>2</sup> 以上	3000mg/日(10錠) 分2

①	ゼローダ処方 (第1日目 ~ 第21日目)	( 8 / 1(月) ~ 8 / 21(日) )	3週間分 ( / ) 印
	休薬期間	( 8 / 22(月) ~ 8 / 28(日) )	1週間
②	ゼローダ処方 (第1日目 ~ 第21日目)	( 8 / 29(月) ~ 9 / 18(日) )	3週間分 ( / ) 印
	休薬期間	( 9 / 19(月) ~ 9 / 25(日) )	1週間

◎適正使用の目安 ※ワファリン、フェイトン併用時は出血、てんかん発作のリスクあるため注意

検査項目	適正使用基準		
ヘモグロビン	9.0以上		
白血球	3000以上		
好中球	1500以上		
血小板数	10万以上		
総ビリルビン	ULN×1.5倍以内		
AST(GOT)	ULN×2.5倍以内		
ALT(GPT)			
クレアチンクリアランス	51以上	50 ≥ ≥30	30未満
投与開始量	基準量	75%用量	投与禁忌

※ 明確な休薬・減量規定は設けられていない

※ 重篤な副作用が認められた場合には休薬する

※ その後の投与再開については、治療上の有益性が危険性を上回ることを評価した上で行う

**抗がん剤療法指示票**  
M-04(No.72)

**ゼローダ療法 (B法: 2週投与 1週休薬)**

(乳がん: 手術不能又は再発乳がん、結腸がん: 術後補助療法) 第 ( ) 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法	医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m <sup>2</sup>			
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

**投与間隔** : 2週投与 1週休薬  次回採血 (外 ケモ)  グレード2以上の副作用の有無確認

◎投与量

**ゼローダ300mg 【 】錠/日 朝夕食後**

体表面積	1日用量
1.33m <sup>2</sup> 未満	3000mg/日(10錠) 分2
1.33m <sup>2</sup> 以上1.57m <sup>2</sup> 未満	3600mg/日(12錠) 分2
1.57m <sup>2</sup> 以上1.81m <sup>2</sup> 未満	4200mg/日(14錠) 分2
1.81m <sup>2</sup> 以上	4800mg/日(16錠) 分2

※ワファリ、フェイトン併用時は出血、  
てんかん発作のリスクあるため注意

①	ゼローダ処方 (第1日目 ~ 第14日目)	( 8 / 1(月) ~ 8 / 14(日) )	2週間分 ( / ) 印
	休薬期間	( 8 / 15(月) ~ 8 / 21(日) )	1週間
②	ゼローダ処方 (第1日目 ~ 第14日目)	( 8 / 22(月) ~ 9 / 4(日) )	2週間分 ( / ) 印
	休薬期間	( 9 / 5(月) ~ 9 / 11(日) )	1週間

<CTCAEによる副作用のグレード>

グレード1		休薬・減量不要、慎重に経過観察
グレード2	グレード2の発現1回目	グレード0-1になるまで休薬、 回復後休薬前の用量で治療再開
	グレード2の発現2回以上	グレード0-1になるまで休薬、 回復後 1段階減量して治療再開
グレード3		
グレード4		投与中止、再投与不可

<減量時の1日投与量>

体表面積	1日用量		
	初回投与量	減量段階1	減量段階2
1.13m <sup>2</sup> 未満	3000mg/日(10錠)	1800mg/日(6錠)	1200mg/日(4錠)
1.13m <sup>2</sup> 以上1.21m <sup>2</sup> 未満		2400mg/日(8錠)	
1.21m <sup>2</sup> 以上1.33m <sup>2</sup> 未満	3600mg/日(12錠)		3000mg/日(10錠)
1.33m <sup>2</sup> 以上1.45m <sup>2</sup> 未満		4200mg/日(14錠)	
1.45m <sup>2</sup> 以上1.57m <sup>2</sup> 未満	3600mg/日(12錠)		3000mg/日(10錠)
1.57m <sup>2</sup> 以上1.69m <sup>2</sup> 未満		4800mg/日(16錠)	
1.69m <sup>2</sup> 以上1.77m <sup>2</sup> 未満	4200mg/日(14錠)		3600mg/日(12錠)
1.77m <sup>2</sup> 以上1.81m <sup>2</sup> 未満		4800mg/日(16錠)	
1.81m <sup>2</sup> 以上			

**抗がん剤療法指示票**  
M-05(No.86)

**ユーエフティ/ユーゼル療法 (3クール目以降)**

結腸・直腸癌 (進行・再発/術後補助)

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m <sup>2</sup>		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師	

**投与間隔** : 28日投与7日休薬 (5週間で1クール)  次回採血(外ケモ)  患者日記でグレード2以上の副作用の有無確認

◎投与量

ユーエフティカプセル100mg/ユーエフティE顆粒100mg 【          】C/包 1日3回 8時間ごと  
ユーゼル25mg 3 T 1日3回 8時間ごと **※食事の前後1時間を避ける**

体表面積 (m <sup>2</sup> )	UFT (mg/日)	投与量 (C/包)		
		午前	午後	夜間
<1.17	300 (3C)	1	1	1
1.17-1.49	400 (4C)	2	1	1
1.50-1.83	500 (5C)	2	2	1
>1.83	600 (6C)	2	2	2

※術後補助療法 半年間(5クール)

※少なくとも1クールに1回以上、臨床検査(血液検査、肝機能検査等)を行う

ユーエフティ/ユーゼル ( 8 / 1(月) ~ 8 / 28(日) ) ( 第1日目 ~ 第28日目 )	4週間分 (    /    ) 印
休薬期間 ( 8 / 29(月) ~ 9 / 4(日) )	1週間
ユーエフティ/ユーゼル ( 9 / 5(月) ~ 10 / 2(日) ) ( 第1日目 ~ 第28日目 )	4週間分 (    /    ) 印
休薬期間 ( 10 / 3(月) ~ 10 / 9(日) )	1週間
ユーエフティ/ユーゼル ( 10 / 10(月) ~ 11 / 6(日) ) ( 第1日目 ~ 第28日目 )	4週間分 (    /    ) 印
休薬期間 ( 11 / 7(月) ~ 11 / 13(日) )	1週間

◎休薬・減量の目安 再開する際、患者の状態に応じて投与量を1段階減量するなど考慮する

検査項目	休薬を考慮	休薬後の再開の目安
ヘモグロビン	8.0未満	9.0以上
白血球	2000未満	3000以上
好中球	1000未満	1500以上
血小板数	7.5万未満	10万以上
総ビリルビン	2.5mg/dL以上	2.0mg/dL未満
AST(GOT)	150 IU/L以上	100 IU/L未満
ALT(GPT)	150 IU/L以上	100 IU/L未満
クレアチンクリアランス	ULN×1.5倍をこえる	ULN×1.5倍以下
非血液毒性	基本的にGrade2以上	Grade1以下

※ワ-ファリン、フェイトイン併用時は出血、  
てんかん発作のリスクあるため注意

参考資料

高知大学医学部付属病院がん治療センター  
肺癌術後補助療法  
UFT服薬に関する注意事項より